特別研修

月例研究会　議事録（　１２　月）

２０１０年度第　１２　回

報告題名　ナマコの資源管理の現状と課題	
報告者　滝田　雄基	**日時 12 月 16 日　午後 3 時～**
（所属分野）　国際開発学分野	**場所　第 2 講義室**
座長　中村	**議事録担当者　泉井、堀、八木、佐々木**

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米澤、冬木、伊藤、石井、阿部（美）、高篠、小賀坂、スチン、八木、宮本、佐々木（龍）、水木、宮里、渡邊、易思、威廉、王、北村、金（喆）、滝田、中村、堀、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金（銀）、黄、小原、片山、佐々木（彩）、佐藤（良）、柴田、渋谷、千葉、藤

報告要旨

中国の経済発展に伴い、中国の食文化の一つであるナマコの需要が拡大してきた。そのために、世界各地でナマコが乱獲され、資源の枯渇が問題となり、日本においても同様に問題となってきた。そのため、ナマコの資源管理の必要性が出てきた。

本研究では、漁業管理主体であるとされる漁協によるナマコ資源管理の現状の把握、及び解決されていない問題や課題を明らかにすることを目的とする。

今回の報告では、資源管理のために政府によって制定されてきた法の変遷と、資源管理を行っている主体の事例について紹介する。

質疑・応答

中村：なぜナマコなのか？

滝田：歴史あるものであり、また近年になって再び話題になってきているので、非常に面白い題材だと思ったから。

木谷：他のナマコと同じような、ホヤなどの嗜好性がはっきりしているものなどについての歴史的、または制度整備との比較を行い、食文化や社会、文化の違いを浮き彫りにする必要があるのでは？ただナマコに固執するだけではダメ。単なる変人ではなく面白い変人になるべき。

滝田：わかりました

安江：科学的な論文として成立させるために漁村と管理主体の関連性を調べる必要があるのでは？また滝田くんの面白いところもテンションを高くして教えてください。

滝田：管理主体が異なると、発生する問題も異なるという点がおもしろいかなと思う。

安江：なぜそのような結果が出ているのかがわからない。因果性を研究するべき。

滝田：わかりました。

木谷：人が異なれば問題も異なることは当然。管理主体の属性分けを行うべき。

滝田：わかりました。

宮本：他の水産資源の管理に応用させた場合の分類などのことを考えているのか？

滝田：まだわかりませんが、アワビやフカヒレは歴史的にナマコと同じような問題を抱えている。

八木：日本においてナマコ漁に関する具体的な問題提起をお願いします。

滝田：新潟、長崎県は枯渇問題が発生したために、資源管理の必要性が発生した。

木谷：この制度はナマコの資源管理という個別の項目なのか？

滝田：この４事例はナマコを個別に制度作成を行っているが、他の地域は水産資源の項目

木谷：なぜ？

滝田：地域的な差はあると思うが、特にこの地域においてナマコの重要性が謳われているためだと思われる。

木谷：ナマコの質や味が違うのでは？

滝田：ちょっとわかりません。

長谷部：地域的な違いを示せるデータなどはあるのか？

滝田：いまはまだない。

長谷部：これは一般的な議論なのか、限定的な議論なのかをはっきりするべき

滝田：わかりました

安江：どうやって枯渇の状態を把握するのか？非常に流動的であり困難では？推定方法の特定などをして、前提を固めたほうがいい。
滝田：わかりました。

木谷：ナマコは養殖できるのか？
滝田：放流しているので、ある程度はできるかと。中国で養殖を行っているという記事もあるが、詳しくはわからない。